

報道関係者 各位

山形県立致道館中学校・高等学校の校歌について

この度、4月に開校予定の山形県立致道館中学校・高等学校の校歌が完成いたしましたのでお知らせします。

1 制作者

さとう けんいち
《作詞：佐藤 賢一》

鶴岡市出身・在住の小説家。鶴岡南高校、山形大学卒業。1999(H11)年に「王妃の離婚」で直木賞受賞。ヨーロッパ史を題材にした作品が多いが、近年は日本史を取り入れた作品を手掛ける。庄内の歴史に造詣がある。

あんどう だいち
《作曲：安藤 大地》

鶴岡市出身、東京都在住の音楽/情報科学研究者。鶴岡南高校、国立音楽大学卒業、東京大学大学院新領域創成科学研究科基盤情報学専攻博士課程修了。東京都立大学学術情報基盤センター准教授等を務める。

さとう まさひと
《編曲：佐藤 昌仁》

三川町出身、埼玉県在住のプロピアニスト。鶴岡南高校、東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業、同大学院鍵盤楽器研究領域（ピアノ）修了。後進への指導も積極的に行なっている。

2 校歌（別紙のとおり）

3 制作者の意図（コメント）

○作詞 佐藤 賢一 氏

致道館中学校・高等学校の基本理念——自主自立、新しい価値の創造、社会的使命の遂行は、まさに藩校致道館から鶴岡南高校、鶴岡北高校と受け継がれてきた伝統です。そこでそれぞれを、一番では鶴岡の春の、二番では夏と秋の、三番では冬の風景に重ねながら、詞にしました。用いた漢文の響きも、また似つかわしい気がしまして。

○作曲 安藤 大地 氏

歌い継がれていくであろう、新しい学校の校歌を作曲させていただき機会をいただき、光栄です。鶴岡南高校と鶴岡北高校が分離する前からの旧校歌にあった「古きを温め新しき啓示をもとめ」のような、古くも新しい素晴らしい歌詞をいただきました。その歌詞の精神に則り、古くを思い起こさせつつ新しい風を吹き込むような旋律としました。

○編曲 佐藤 昌仁 氏

新たな伝統の最初の1音に携わるにあたり、この校歌がどんな時でも心の支えとなるようお願いしながら編曲いたしました。庄内を讃えた美しく雄大な歌詞、歴史と革新を体現された素晴らしい旋律、それぞれの調和を目指し、さらに鶴岡南北両校校歌へのオマージュによる後奏を添えております。集う若人たちに幸多からんことを！

4 今後の予定

令和6年4月10日 開校式にてお披露目



問い合わせ先 教育局高校教育課

○致道館中学校・高等学校開校準備室

開校準備専門員 佐々木 剛

電話 0235-29-2240

○高校未来創造室室長補佐 太田 真也

電話 023-630-2132

報道監 教育局長

庄司 雅人